

四国森林管理局 第16号

国有林モニターだより

平成 18 年 11 月 7 日
編集・発行
四国森林管理局 企画調整室

食欲の秋、読書の秋と先月書きましたが、芸術の秋も加わってきました。音楽を聴いて歴史文化に触れたいくなる季節でもあるようです。公私ともに充実した日々を過ごして参りたいものです。

○第2回勉強会開催しました。

10月29日(日)に高知県馬路村魚梁瀬にて第2回目の勉強会を実施しました。今回の参加者はモニター6名(うち1名はご家族の方の参加)と新聞記者2名でした。当日は天気にも恵まれ、防寒の準備をしっかりとしていきましたが、幸いに暖かな日和で勉強会を実施できました。

昼前に目的地に着き、木製治山ダムの見学を行いました。景観に配慮した工法ですが、豊かな自然の中にコンクリート堰堤を作るとことは景観、つまり美意識や感情の問題から認められなくなってきており、今普及しつつあるところです。

昼食後は魚梁瀬スギの見学をしました。樹齢200年以上の大木群を前にしての青空教室です。当日は管轄の安芸森林管理署長と魚梁瀬の首席森林官が説明を行い、モニターの方と活発な意見交換ができました。

魚梁瀬の国有林も国民の皆様の財産です。それを林野庁のスタッフが任されて管理しております。その活動の一端を見ていただき、私たちも良かったと思っております。

ご参加くださいましたモニターの皆様、どうもありがとうございました。

○久万林業まつり

10月14日(土)、15日(日)の2日間、愛媛県久万高原町で久万林業まつりが開催されました。愛媛森林管理署コーナーで正岡が木工の指導をしましたが、昨年度のモニターの高橋さんが会場にいらしてくださいました。いつも、家業である材木屋さんの通信と感想を送って下さる方ですが、お子さんと一緒に来られ木工品作りをしていただきました。

このようなふれあいができることもイベントの楽しみの一つですね。

久万林業まつり
会場の様子



木製治山ダム見学



第2回 国有林モニター勉強会



魚梁瀬スギ見学→
天然更新↓

○第3回アンケート

第3回目のアンケートを実施いたします。今回のテーマは「四万十くろそんプロジェクト」についてです。ここで第一回目の勉強会を実施しております。勉強会に参加された方は、その時のことを参考に、また参加されていない方も理解を深めていただく資料も同封しておりますので、それを参考にご回答下さい。

併せて、黒尊でのイベントのご案内も同封いたしますので、興味のある方はご参加の程よろしく申し上げます。

(後記)

天気も良く暖かい日が続いております。週末の高知市内も日曜市を中心に賑わっていて何となく嬉しい気持ちになりました。オンとオフのバランスが大切ですね。(正・山)

歳時記（小枝を使った作品） （十一月）

11月15日は七五三の日です。

11月15日に七五三を祝うようになったのは、辞書によると11月15日が「鬼宿日（きじゅくにち）」鬼が自宅にいる日で最良の日とされています。また、七五三の由来は「三歳（男女ともに髪置き：髪を伸ばし始める）、五歳（男子で袴着（はかまぎ）：初めて袴をつける）、七歳（女子で帯解き：帯を使い始める）と、成長の節目に近くの氏神様に参拝して無事成長したことを感謝し、将来の幸福と長寿をお祈りするのが七五三の行事で、もともとは宮中や公家の行事」と書かれています。

今回の作品は、神官（鎮守の森の動物たち）にご祈禱をしてもらっている子供達をイメージして作品にしてみました。

私の実家の斜め前には鎮守の森があり、タヌキやムササビ、ハクビシン、フクロウ、コウモリや昆虫などいろいろな生き物が住んでいます。

こういった生き物を育てているのは、何百年という歳月を重ねた樹木が生い茂る「鎮守の森」があるからです。そういった森を将来にむけて大切に残していきたいものですね。思いは私だけでしょうか？



「鎮守の森で七五三」